

キュレーターズ・チョイス 07

対話する美術館

専門スタッフが選ぶこだわりの作品から知られざる傑作、珍品を一挙公開！



モホイ＝ナジは、写真で絵画に迫ろうとした。
だが、その試みは却って光が演ずるドラマを輝かせることになったのだ。

<モホイ＝ナジ「手」1926年> 福原義春ディレクターズ・チョイス

2007年8月11日(土)-10月8日(月・祝)

東京都写真美術館 地下1階展示室 / 4階図書室

< 展覧会概要 >

東京都写真美術館には、展覧会の実施、写真映像作品・資料の収集、教育普及事業、図書室の運営、写真に保存についての科学研究にたずさわる学芸員、専門調査員、図書館司書、保存科学専門員といった職員が従事しています。

このような専門スタッフが、日頃の研究や事業を企画・運営するなかで培った個性的な視点にもとづいて収蔵作品をセレクトする「キュレーターズ・チョイス 07」は、テーマを「対話する美術館」と題し、専門スタッフならではの視点で、作家や作品との対話、そしてなによりもご来館いただくお客さまとの対話を実践し、写真美術館の魅力を広く示してゆきます。

当館に収蔵されている2万3千点余にのぼる作品・資料と、約5万4千点に及ぶ写真・映像に関する図書の中から、専門スタッフがセレクトした名品、知られざる傑作からあっと驚くような珍品をご紹介します。通常の企画展ではなかなか展示する機会の少ない、でも美術館の専門スタッフが本当に見せたかったという、とっておきの秘蔵作品をどうぞお楽しみください。(出品作品数約180点)

< 出品予定作品 > 各選者より代表的な1点をチョイスしコメントにまとめました

選者	作品名(プレス図版番号)	作家(著者)	コメント
ミュージアム チョイス(美術館が選んだ1点)	アルベルト・ジャコメッティ 1965 年 (1)	ユーサフ・カーシュ	平成 18(2006)年度に収蔵された作品。カーシュが描き出す肖像には、写された人物の「運命」が刻み込まれている。
福原義春 (館長)	手 1926 年 (2)	ラスロ・モホイ＝ナジ	モホイ＝ナジは、写真で絵画に迫ろうとした。だが、その試みは却って光が演ずるドラマを輝かせることになったのだ。
笠原美智子 (学芸員)	ナンとブライアン、ベッド で、ニューヨーク 1983 年 (3)	ナン・ゴールディン	ナン・ゴールディンの衝撃的デビュー作『性的依存のバラード』からの1点。性を巡る日常を日記風に綴り、女性のセクシュアリティ表現の金字塔となった。
岡部友子 (学芸員)	New York City 1971 年 撮影 (4)	森山大道	前回のテーマは「1930年代の都市」。そして今回は森山大道の都市。時代を経て、都市と人と写真との対話はどう深化したのだろうか。
渡邉和子 (学芸員)	シリーズ<死>より 1993 年 (5)	宮崎 学	人間がそんなに偉いのか？
石田哲朗 (学芸員)	Untitled/うたたね 124 2001 年 (6)	川内倫子	川内倫子とジョナス・メカス。うたたねの時間、凍りついたフィルムのコマたち。イメージは静かに語りかけてくる。生きることは、無数のまたたきの連続だということ。

河村三枝子 (学芸員)	『THE FAR EAST』第3巻 第23号 1873年より 油売り (7)	撮影者不詳	新聞社、郵便、瓦斯灯とともに、写真は「文明開化の7つ道具」と言われた。そして西洋文明の象徴「写真」は、より多くの「日本」を世界に語り始めた。
山口孝子 (保存科学専門員)	題不詳(大礼服の肖像) 1907年 (8)	鎌田彌壽治	この作品はオートクロームが用いられている。オートクロームは、オレンジ、緑、紫に着色されたジャガイモの澱粉粒子を色素として使用し、1907年に世界初の実用的カラー感光材料として発売された。身近な材料を用いた発想には驚かされる。
鈴木佳子 (学芸員)	シリーズ<広島 HIROSHIMA NOW>より 1965-1966年 (9)	石黒健治	群衆のなかに、ひとり佇む女性。雑踏のざわめきが沈黙に変わる時、1945年の大爆音の直後の無音のイメージが、頭のなかでフラッシュバックする。
三井圭司 (専門調査員)	題不詳(松平忠礼を囲む五人の男)1865-68年 (10)	横山松三郎	コロディオン湿板方式で数秒の露光時間を要した当時、酒席を自然な写真に残そうとするには、綿密な打ち合わせを必要としたことだろう。
岡村恵子 (学芸員)	ポートフォリオ<宇宙への旅—25年の歴史>1991年より ミッション:アポロ・サターン11号 1969年7月16日-24日 (11)	NASA(アメリカ航空宇宙局)	美しさはいつも理不尽で気紛れ。写真を巧拙で見たことはあまりなく、もっぱらその作用(パフォーマンス)に興味がある。——キューブリックと同じくらいリアル。
神保京子 (学芸員)	展望台からのナイアガラ滝の眺め 1855年 (12)	プラット・D・バビット	最も初期の観光写真と言われる手彩色のダゲレオタイプ。風景と対峙することによって生み出される力強く広大な自然との対話は、人々を癒し、蘇らせる。
丹羽晴美 (学芸員)	シリーズ<サヘル>より かつてファキビンヌ湖のあった土地が砂漠に変わっている、マリ 1985年 (13)	セバスチャン・サルガド	写真は過去、現在、未来を内包する。被写体の歴史と現在、作家のまなざしの軌跡、作品を見た者の記憶と未来。写真が残すものを過去の歴史として片づけるか、未来への種として生かすかは、見るものに拠っている。
藤村里美 (学芸員)	シリーズ<東京長日>より 題不詳 1971年～1980年 (14)	桑原甲子雄	街角で話し込む二人の女性。「瞬間を切り取る」というのも写真の特質の一つである。私たちがスナップショットと呼ぶ写真に心惹かれるのは、どこかで自分が経験したことがある場面と重なるからだろうか。

金子隆一 (専門調査員)	左・シリーズ「風化する時、 長崎はいま」より 末次助 作氏 1961 年撮影 1980 年プリント / 右・シリーズ「長 崎 < 11:02 > 1945 年 8 月 9 日」より 末次助作さん(浦 上地区) 1961 年撮影 1995 年プリント (15)	東松照明	東松は、作品のタイトルを変えたり、焼き付 けの調子を変えたり、別テイクに差し替えたり する。表現を時代と拮抗させようとする作家 的態度の表れであり、「写真」の本質も表し ている。
中村浩美 (学芸員)	ポートフォリオ < 女たちは美 しい > より 1981 年 (16)	ゲリー・ウィノ グランド	アメリカを、女性であることを、そして何よりも < 今 > を生きていることを全身全霊で謳歌し ているかのようで、その潔さが気持ちいい。 こうして < 今 > を笑ってやり過ごしていけた らどんなに幸せだろう、といつも励まされるイ メージだ。
石田留美子 (専門調査員)	真夏の午後 中国・重慶 1986 年 (17)	レオ・ルビン ファイン	猛烈な勢いで発展をとげる現代中国。この 中国の圧倒的な生命力とパワーは今に始ま ったことではなかった。彼らのリアルな生活 や臭いを撮ってきた写真家の視線から、そ の謎に迫る。
古川繁子 (図書館司 書)	『日本の子ども 60 年』2005 年、新潮社刊 (18)	日本写真家 協会編	一部の方には、「懐かしい」という気持ちを喚 起させるのか、展覧会終了後にもご覧になり たいという問い合わせが多くありました。
来代紀子 (図書館司 書)	『Libraries』2005 年、 Thames&Hudson 刊 (19)	Candida Hofer	この図書館も、あの図書館も訪れてみたい、 と思わせる写真集。あなたはどの図書館に 行ってみたいですか。
小林玉枝 (図書館司 書)	『写真雑誌の軌跡:JCII ライ ブラリー 10 周年記念展』 2001 年、JCII ライブラリー刊 (20)	JCII ライブラ リー	2001 年に JCII で開催された展覧会カタログ です。日本の代表的な 40 タイトルの写真雑 誌を表紙の写真と書誌解題を付けて紹介し ています。
柴崎夏子 (図書館司 書)	『美術館にいこうよ!』 1998 年、クレオ刊 (21)	エリオット・ア ーウィット	プロの写真家だが趣味もアマチュア写真家 でいる事だというアーウィットの美術館巡り。 思わず頬が緩みます。

■担当学芸員による展示解説

会期中の毎週金曜日午後3時より展示解説を行います。

< 開催概要 >

主 催 東京都 東京都写真美術館
〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
電話 03-3280-0099

会 期 2007 年 8 月 11 日(土)→10 月 8 日(月・祝)

会 場 東京都写真美術館 地下 1 階展示室・4 階図書室

観覧料 一般 500(400)円 / 学生 400(320)円 / 中高・65 歳以上 250(200)円
()内は 20 名以上の団体および東京都写真美術館友の会
小学生以下および障害をお持ちの方とその介護者は無料
第3水曜日は 65 歳以上無料

開館時間 10:00～18:00(木・金は 10:00～20:00、入館は閉館の 30 分前まで)

休館日 月曜日(但し祝祭日の場合は開館、翌火曜日休館)
ただし 10 月 1 日(月)都民の日は臨時開館(観覧無料)。
翌 10 月 2 日(火)は通常開館

< お問い合わせ先 >

東京都写真美術館
〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
電話 03-3280-0034 FAX 03-3280-0033

事業企画課 渡邊 和子 k.sekiji@syabi.com(展覧会担当)
金子 隆一 r.kaneko@syabi.com(展覧会担当)
久代 明子 a.kushiro@syabi.com(広報担当)
島津 彰子 a.shimazu@syabi.com(広報担当)

■ 8月10日(金)夕刻よりプレスギャラリーツアーを開催

プレスの皆様を対象に、担当学芸員による展示解説を行います。

参加をご希望の方は、上記広報担当までご一報ください。ご来館をお待ちしております。

< プレス用掲載図版 >

次項の図版をデータにてご用意しています。広報担当までメールにてお尋ねください。

< 掲載に際してのご注意 > 1. 図版はトリミングできません。 2. 図版をご掲載の際は、必ずキャプションもいっしょにご記載ください 3. 掲載前にゲラを拝見させていただきますのでご配慮をお願い申し上げます 4. お渡しした図版は、本展の紹介以外での目的では使用できません。このことに関して発生したトラブルについて当館は一切責任を負いかねます 5. 作品図版は実際の展示と異なる場合があります。 6. 掲載紙をご寄贈いただきますようお願い申し上げます。

「キュレーターズ・チョイス07」展 プレス用掲載図版

(図版キャプションは前出表の作品名と作家・出版社をご参照ください)

1



2



3



4



5



6



7



8



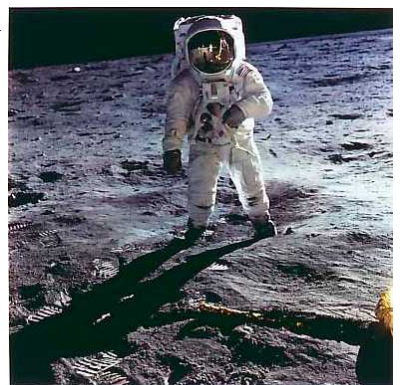
9



10



11



12



13



14



15



16



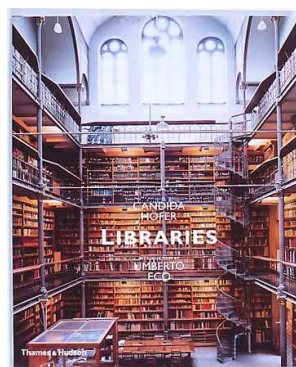
17



18



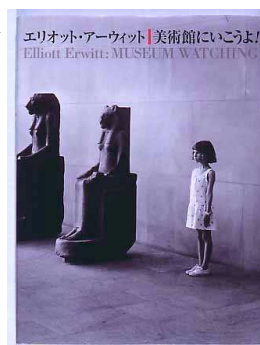
19



20



21



< プレス用掲載図版 >

以上の図版をデータにてご用意しています。広報担当までメールにてお尋ねください。